

能・狂言

三鷹

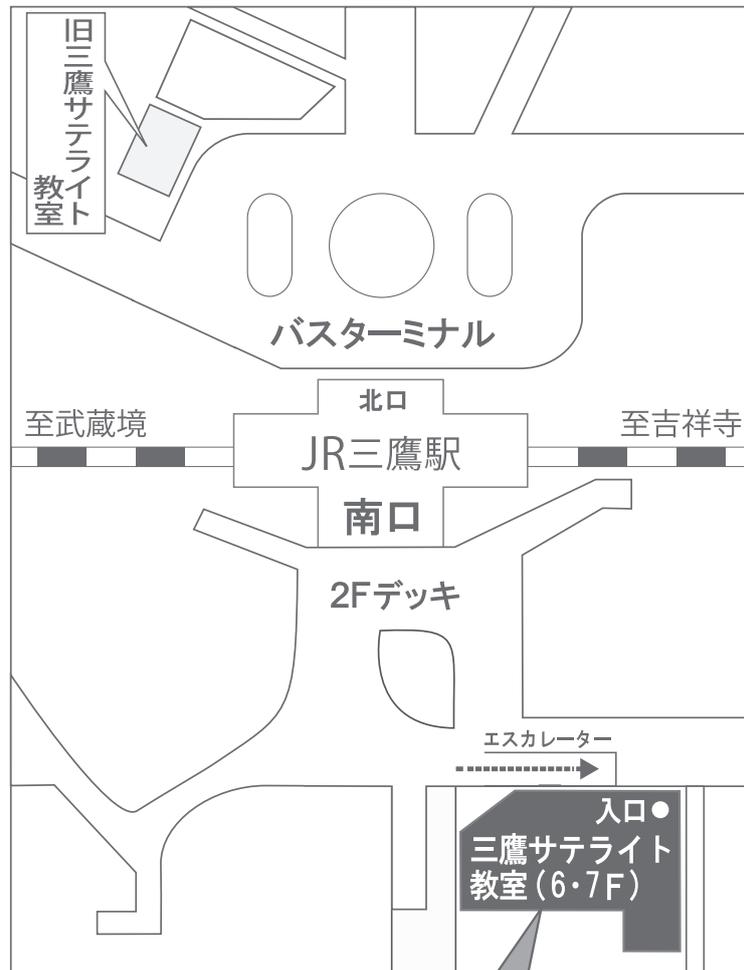
311074

# 能・狂言鑑賞入門

— 能〈天鼓〉の魅力を考える —

受講料 (振込額)	6,000円		
必携テキスト	『初めての能・狂言』小学館 1,620円 『対訳で楽しむ 天鼓』檜書店 540円		
講座概要	曜日	金曜日	
	時間	15:00～16:30	
	回数	全3回	定員 50名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F 大教室	
講師	本学教授・能楽資料センター長 <b>三浦 裕子</b> (みうら ひろこ) ゲスト講師：シテ方喜多流能楽師 <b>友枝 真也</b> (ともえだ しんや)		
	<b>三浦裕子</b> 東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了。 著書に『能・狂言の音楽入門』、『初めての能・狂言』(共著)、『面からたどる能楽百一番』など。 <b>シテ方喜多流能楽師 友枝真也</b> 1969年、東京に生まれる。友枝喜久夫の孫。初舞台は仕舞〈月宮殿〉(3歳)。15世宗家喜多実に入門。内弟子を経て独立。現在、友枝昭世に師事。2004年〈猩々乱〉、08年〈道成寺〉、11年〈石橋(赤獅子)〉を抜く。喜多流職分会同人。「燦ノ会」同人。「洩花之能」主催。日本能楽会会員。能楽協会会員。		
内容	〈天鼓〉は中国を舞台とする能です。天から鼓が降り下ってくる夢を見た母親が子どもを授かり、天鼓という名前を付けると、実際に天から鼓が降ってくるという奇跡が起こります。これを前提として〈天鼓〉のお話は進んでいくものです。具体的に言うと、能〈天鼓〉の前半のシテ(主役)は天鼓の父親で、わが子を帝に殺された父親の悲憤が描かれていきます。後半は、天鼓の亡霊がシテとなり、天の鼓を打ち鳴らしつつ華麗な舞を舞います。このように〈天鼓〉は前半と後半との雰囲気非常に異なる点が大きな特徴となっており、本講座では台本を丁寧に講読することで、その理解を進めていきます。 また、喜多六平太記念能楽堂(目黒)で能〈天鼓〉を演じる友枝真也氏(シテ方喜多流能楽師)をゲストにお迎えし、実演を交えたお話をうかがいます。 今回、初めて受講される方にもわかりやすく講義を進めていく予定です。		
	① 8月23日：能〈天鼓〉前半を読む ② 9月6日：シテ方喜多流能楽師・友枝真也氏をゲストに迎えて ③ 9月20日：能〈天鼓〉後半を読む		

# 武蔵野大学 三鷹サテライト教室



JR三鷹駅 南口より徒歩1分

**三鷹三菱ビル 6・7 F**  
(三菱UFJ銀行のビル)

東京都三鷹市下連雀3-26-12

1階入口からお入りください。

- ・ 前の時間に講座がある場合は教室の準備ができるまでお待ちいただくことがあります。
- ・ 教室前の机にある出席簿に○をつけてから教室にお入りください。
- ・ 生涯学習講座登録証を携帯してください。
- ・ 欠席の連絡は必要ありません。
- ・ 駐輪場、駐車場はありませんのでご了承ください。